

02 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進

リユース

●リターナブル容器の利用

部品の国内輸送・搬入に「リターナブル容器」を使用するよう積極的に推進しています。従来はダンボールを使用し国内輸送・搬入をしていましたが、紙の省資源化と作業の効率化を図るため、2003年度よりリターナブル容器の利用を開始しました。

2008年度の状況として出荷用リターナブル容器の使用率は出荷用容器全体の22%で、約121tのダンボールを削減。入荷用リターナブル容器の使用率は入荷用容器全体の51%で、約148tのダンボールを削減しました。



出荷用リターナブル容器



入荷用リターナブル容器

●外装箱のリターナブルラック化の推進

梱包・包装資材の使用量削減のため、現地で廃棄されていたスチールケースのリターナブル化に取り組んでいます。

2008年度は新たにマレーシア、台湾(台鈴工業)に送付を開始しました。既にリターナブルラックを導入している仕向地(ハンガリー、インド、インドネシア、台湾(台湾太子)、パキスタン、アメリカ(SMAC)、中国(長安鈴木)、カナダ(CAMI)を含め、全送付スチールケースの約57%をリターナブルラックにて送付しました。

また、台湾からの輸入二輪車にも2006年よりリターナブルラックを導入しています。現在、中国からの輸入二輪車にもリターナブルラックの導入を検討しています。



リサイクル

●ダンボールの再利用

スズキは工場で発生する廃ダンボールを部品の破損を防ぐための緩衝材に再利用しています。2003年に緩衝材製造機を導入した後、廃ダンボールの再利用を図り、2008年度は約26t/年を再利用しました。



廃ダンボールを再利用した緩衝剤

03 低公害輸送の推進

工場内の物流

工場内の完成車移動と部品運搬のため、スズキはバッテリー式無人牽引車 (AGV) を使用しています。この車両はCO₂を発生しないこともあり、スズキの各工場で活躍しています。



AGV

補修用バンパーの輸送効率の向上

補修用バンパーの梱包荷姿をダンボールから空気封入資材に変更することで、梱包材の重量を半減し、また部品荷姿の体積は平均約75%に低減できました。

さらに運搬パレットの高さを低くすることで、トラック荷台に2段積みが可能となりました。これにより月当たり大型トラック145台相当の輸送効率の向上を実現しました。

